



~ 13
3392
1



13
3392
1

嘉慶
御
印

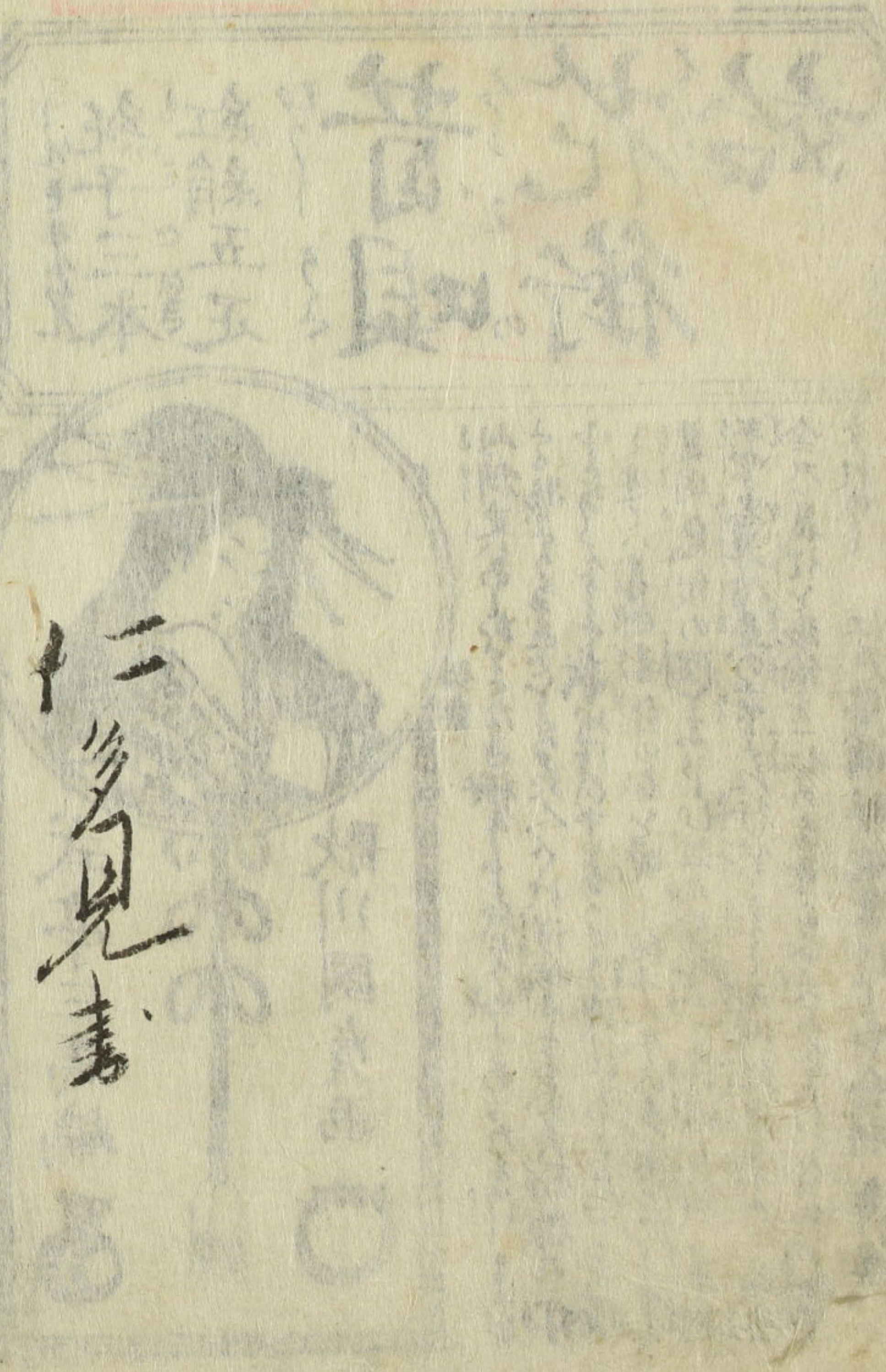
純子三本
紅繪五足
昔頃
花街
始



式亭三馬編
歌川國貞画

此種史のあかき根をいふは、あつたれは、まけ
ざる物なり。とて、いふ人々、れ、誤極小とて、大に、
少とせん。とて、いふ人々、れ、誤極小とて、大に、
とて、いふ人々、れ、誤極小とて、大に、
悪因、悪報の理とて、いふ人々、れ、誤極小とて、大に、
半、四、忠、孝、信、義の、有、る、行、状、と、て、いふ人々、れ、誤極小とて、大に、
全、の、義、理、と、教、諭、と、一、部、の、上、意、と、て、いふ人々、れ、誤極小とて、大に、
と、れ、の、
江戸書舗 雙鶴堂 け、や、金助 壽撰

三
十四
年
故
氏
友
大
贈



仁多見書

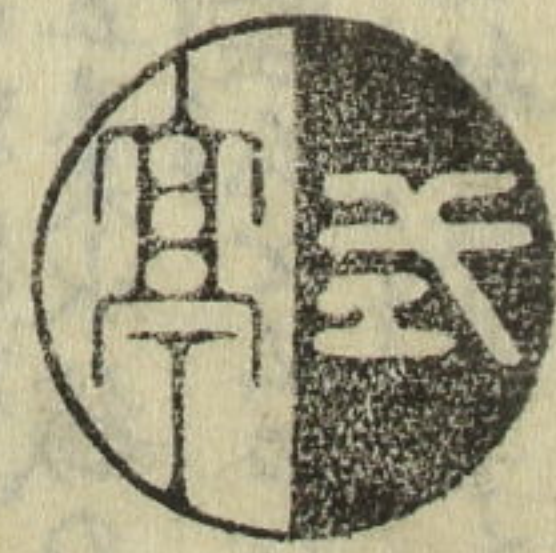
題花街始後

藟^{たぐ}食^くふ蟲^{むし}も己^{おの}好^まくく^ま宜^なき^まれ^ん八種^{やくちゅう}蝨^し飼^こ五美^{ごみ}水^{みづ}織^おの
 上菓^{じやうが}子^こと嫌^{きら}く一山^{いつさん}四文^{しぶん}十箇^{じゅうかん}三友^{さんゆう}乃^の琉球^{りゅうきゅう}芋^{いも}や陰^{かげ}瓜^{うり}と^とあ^あの^のむ
 あ^あの^のは^は後^ごと^と稗史^{はいし}に^に譬^{たと}へ^へ讀本^{どくほん}ハ^ハ上菓^{じやうが}子^こや^や草雙紙^{そうじやうし}ハ^ハ駄菓^{だが}子^こに^に
 さ^さし^しど^ど這草紙^{えぞうし}と^とあ^あま^まる^る大俗^{だいじやく}ぢ^ぢや^やと^と命^{いのち}ら^らぢ^ぢ有官^{ゆうくわん}も^もあ^ある^るは^はと^と
 作者^{さくしや}の^の腹^{はら}ハ^ハ黑砂糖^{くろさとう}な^なま^まる^る太白^{たいはく}れ^れ製法^{せいぽう}と^とま^まる^ると^とて^てん^んが^が口^{くち}ハ^ハ
 た^たま^まる^るち^ちろ^ろ烏^く哉^や乎^や也^や半^{はん}熟^{じやく}ぢ^ぢ侍^{ざむらい}ぢ^ぢが^が腮^{おほ}ハ^ハ私^しに^にけ^けつ^つち^ち折^せ角^{かく}
 老^{らう}店^{てん}と^と駄菓^{だが}子^こ乃^の株^{かぶ}も^も愛^{あい}敬^{けい}派^{はい}失^{しつ}ぢ^ぢと^と這般^{えんぱん}仕^し入^い方^{ほう}と^と吟^{ぎん}味^み
 仕^して^て趨^き向^{かう}ハ^ハ和^わめ^めと^と齒^はに^にけ^けつ^つち^ちと^とあ^あま^まる^ると^とて^てん^んが^が口^{くち}ハ^ハ俗^{じやく}文^{ぶん}章^{ぢやう}に^に
 繪^え虚^{きょ}言^{げん}ぢ^ぢ衣^いと^とけ^けつ^つち^ちの^の上菓^{じやうが}子^こ屋^やと^と駄菓^{だが}子^こ屋^やと^と讀本^{どくほん}と^と草^{くさ}

雙紙乃其挿間に國字小説彼琉球芋や陰瓜と御好物の
女中方。子供衆ゆゑ讀易く味安き一家に風味上菓子屋
の嘲と顧るにあらはのほき戯作者心。千本あまのちな製法
あらむ。新製とおぼしめされ。評判はか需なきに。
御年賜ふと持能のそとつふ。

石町乃舍小おつ

式亭三馬戯題



大盡舞作者二朱判吉兵衛傳

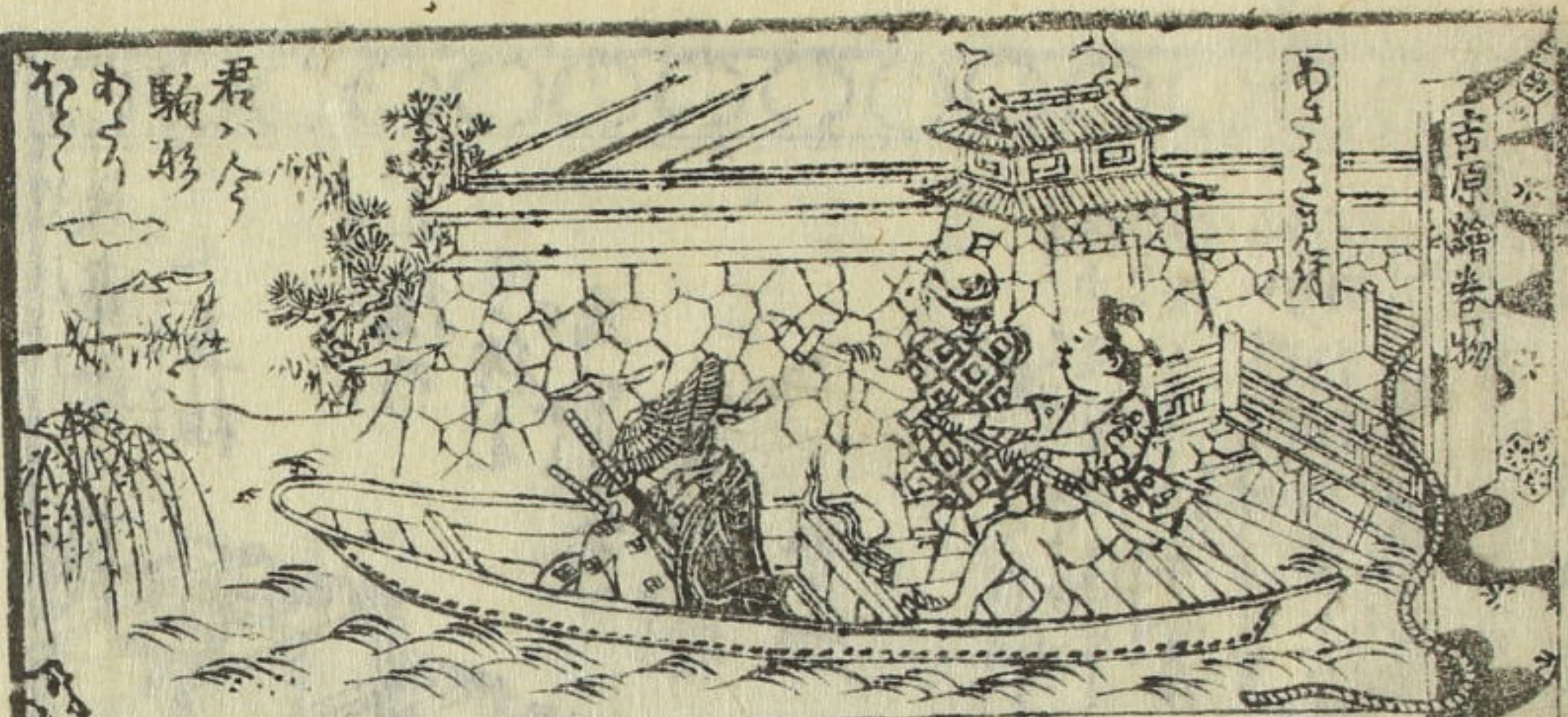
大盡舞作者の二朱判吉兵衛傳
二朱判吉兵衛傳は、中村吉兵衛の著である。この舞は、吉兵衛が創作したものである。その内容は、吉兵衛の伝説的な生涯を描いたものである。吉兵衛は、大盡舞の達人として知られ、その舞は、観衆を魅了するものであった。この舞は、吉兵衛の創作であり、その内容は、吉兵衛の伝説的な生涯を描いたものである。



上吉止 二朱判肖像

此は二年瑞時中村吉の
舞臺に於て見られたる
二朱判の肖像也。此の肖像は、
吉兵衛の伝説的な生涯を描いたものである。吉兵衛は、大盡舞の達人として知られ、その舞は、観衆を魅了するものであった。この舞は、吉兵衛の創作であり、その内容は、吉兵衛の伝説的な生涯を描いたものである。





高尾 馬
 船
 舟
 馬
 舟
 馬
 舟
 馬

大盡舞唱歌

大盡舞唱歌
 舟馬舟馬舟馬舟馬
 舟馬舟馬舟馬舟馬
 舟馬舟馬舟馬舟馬



高尾 馬
 船
 舟
 馬
 舟
 馬
 舟
 馬

舟馬舟馬舟馬舟馬
 舟馬舟馬舟馬舟馬
 舟馬舟馬舟馬舟馬

願日本堤南郭
大堤春水満
相映送春衣
日暮逢公子
不知何處歸



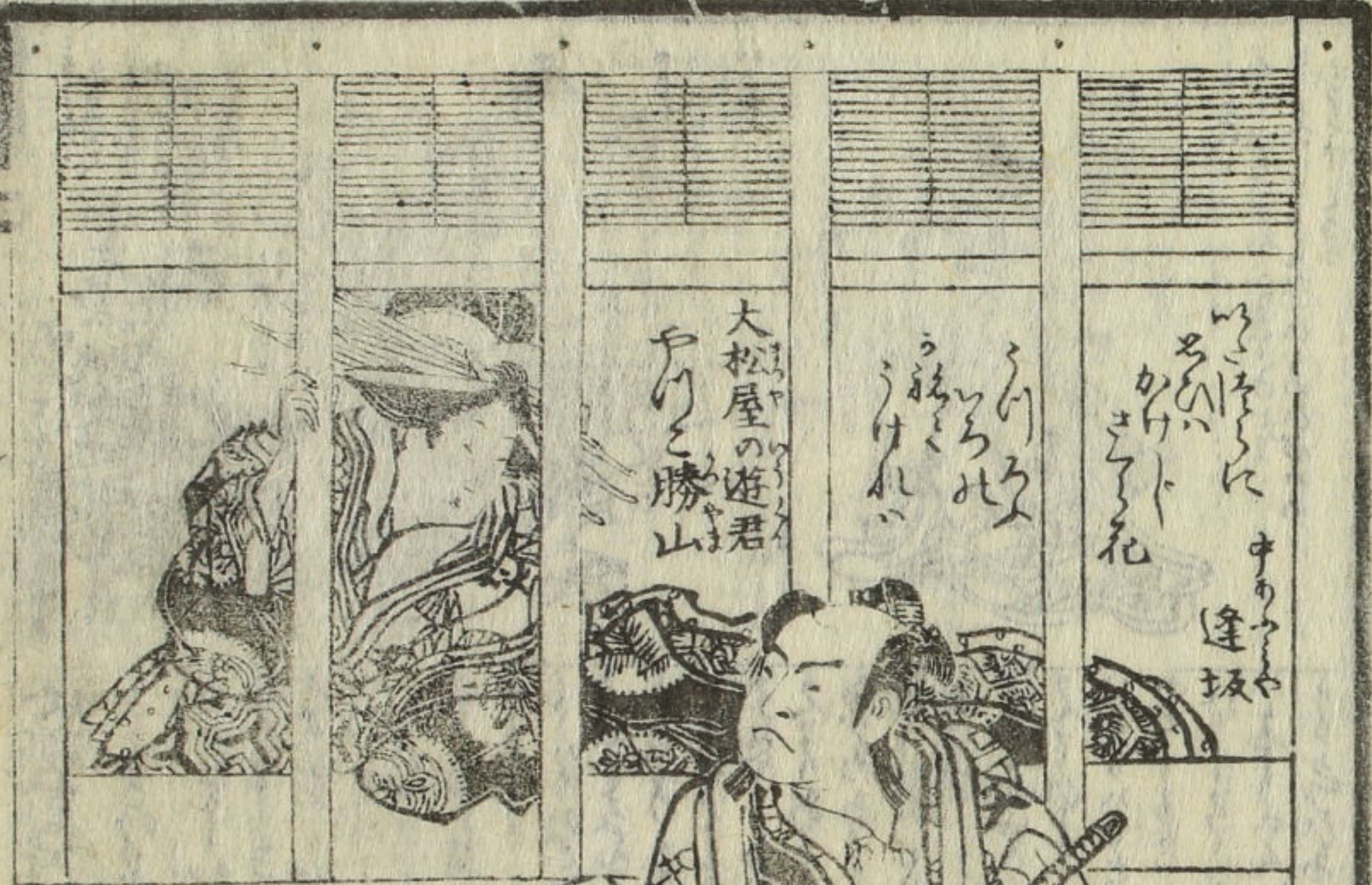
其角の角
古細の馬
ふつ
其角
かたき
三枚五枚の小口
古夫古細
見ぬ七十四又とありのち
八十二又とあり又五十九又
とありとあり古細
見ぬ八十五又とありのち
六十又とありとあり
古細見ぬ八十九又とあり
とありのち
古夫古細
見ぬ七十四又とありのち
八十二又とあり又五十九又
とありとあり古細
見ぬ八十五又とありのち
六十又とありとあり
古細見ぬ八十九又とあり
とありのち

園が納まのしるし
山口二丁目二浦屋四郎左衛門の二り
吉原丸がらぬ田二浦のりか太夫。まを
山口二浦の太夫と江戶町二丁目山口二浦
京町二丁目二浦屋四郎左衛門の二り
吉原丸がらぬ田二浦のりか太夫。まを
山口二浦の太夫と江戶町二丁目山口二浦
京町二丁目二浦屋四郎左衛門の二り
吉原丸がらぬ田二浦のりか太夫。まを



古細とあり八十九又とあり
とありのち
古夫古細
見ぬ七十四又とありのち
八十二又とあり又五十九又
とありとあり古細
見ぬ八十五又とありのち
六十又とありとあり
古細見ぬ八十九又とあり
とありのち

此のゆかりす出ひあり
浮世風呂 中本
男湯之部 初編 全二冊
これに他家の扱ふ中本を以て馬作
中本中本といふは
後湯の物語といふものや
入湯人のあつたあつたといふもの
中本中本といふもの
先達といふもの



大松屋の遊君
戸の勝山

中野の
逢坂

江戸戯作者 三馬編

任使 土手節重兵衛
実名 以瀬重兵衛光氏



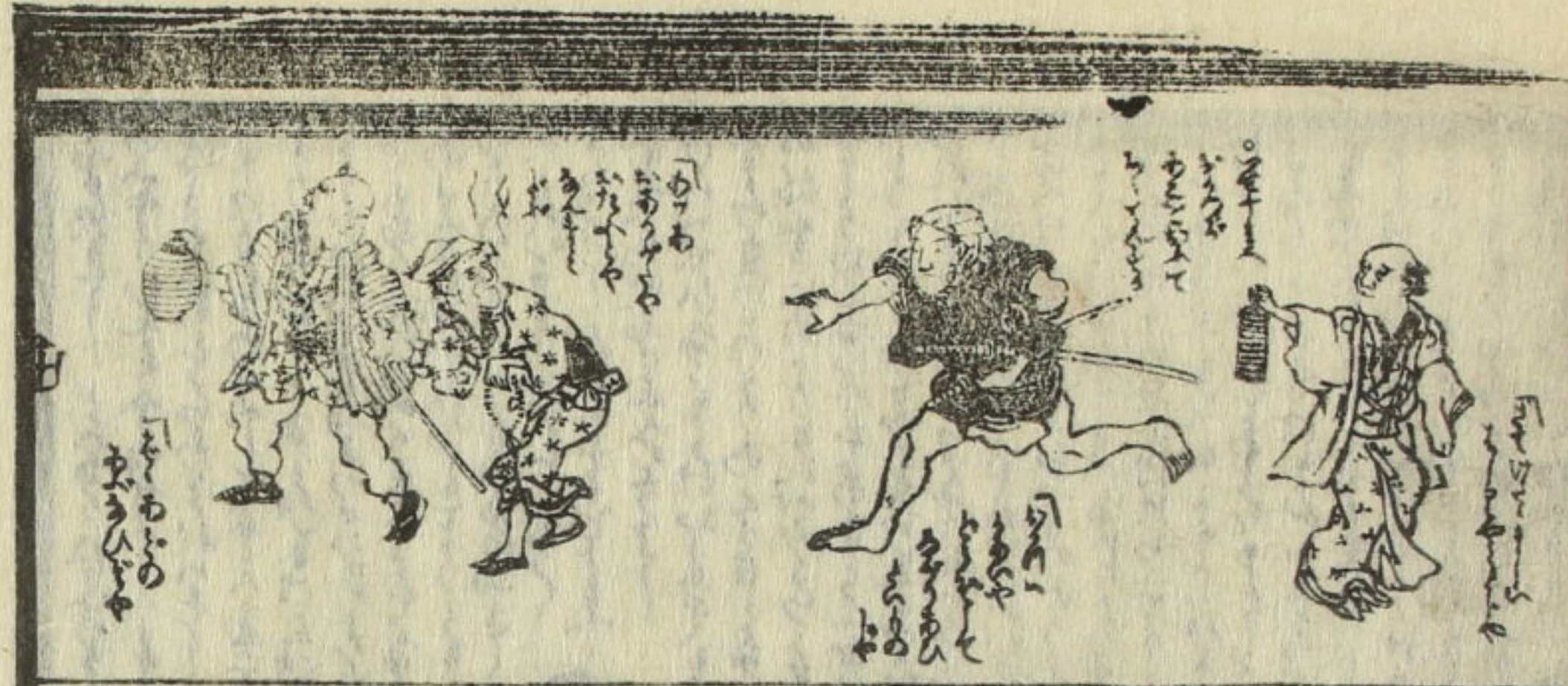
古人大谷十町拾任使圖
横根明片春章畫一枚繪



居續の
夜着
あそび出て
さうろ丸

右邊
摸
占人勝川春章画
中村大秀鶴似貞繪

若首五枚の大意を採りて其の大意を
以て美川師宣画く所の古園紙像で
模し出せりきふふと右五枚の後
此本文よりかゝるべき所とあるは
草紙世小源布の小説といふは
文章淨瑠璃の婦女子小鏡易
んといふと表として作らるるは
浄瑠璃の体裁なりける鎌倉時代の
変遷と時世様の唱ふに概ハ例の
近松が筆海と云ふは俗身小通を
んといふおとどろく春官其持きを
いふといふ



流轉阿古義物語六冊豊國画
數回一名大磯十人きり
けしや金助板



流轉阿古義物語六冊豊國画
數回一名大磯十人きり
けしや金助板





ついでに
ごえり

奉納
大願成
女
名

草木園
上
下
比
呂
日
吉
明
照
合
押
原
住
村

大願成の上

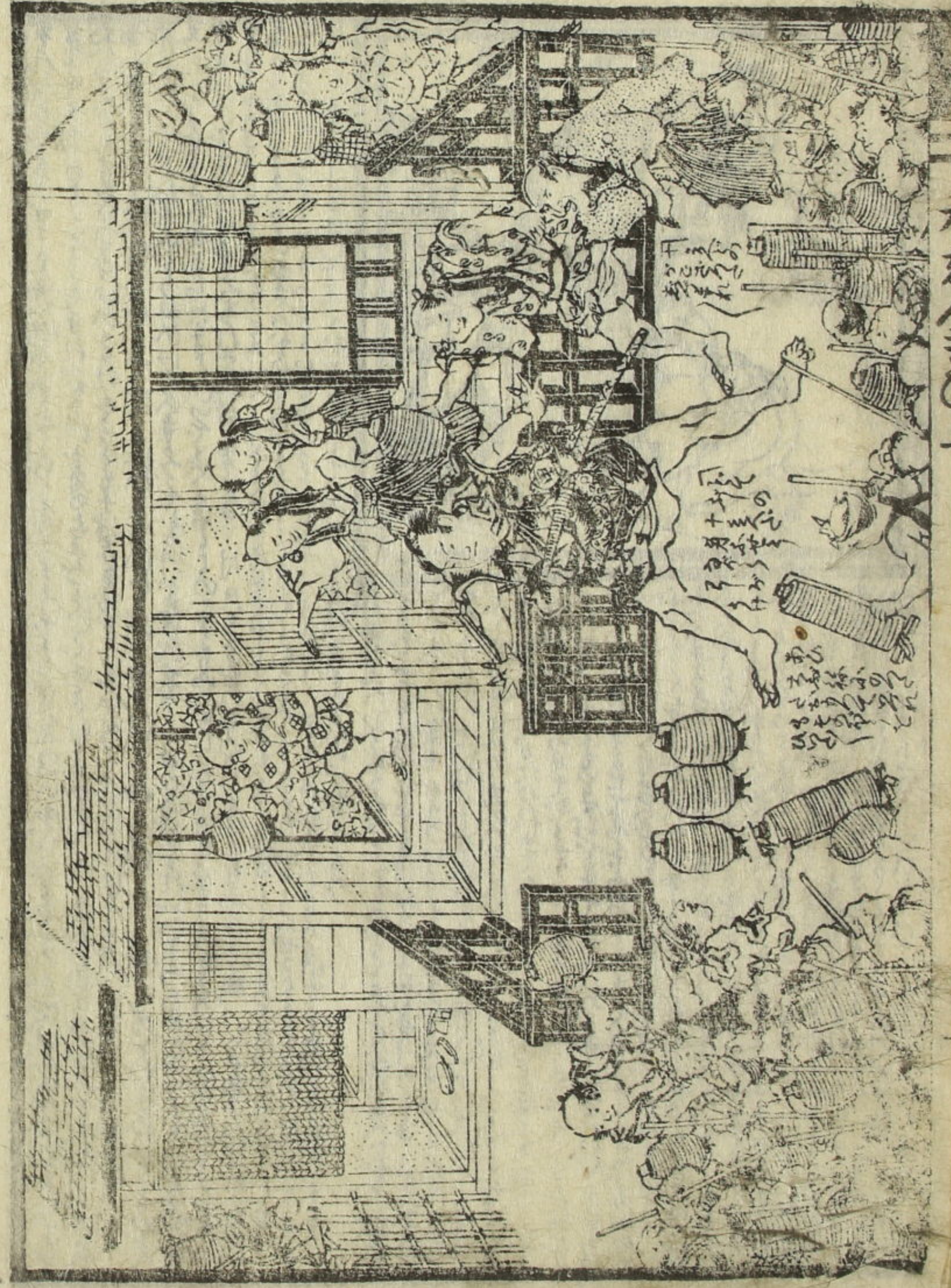


これより
ついでに
ごえり

奉納
大願成
女
名

Red square seal impression, likely a library or collection stamp.

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, located to the left of the illustration. The text is arranged in vertical columns and appears to be a commentary or a list of names related to the scene depicted.





この本とてふし十文うてうしのふとかんせぬものもなきいふく各とくは
男たてとありぬ山川大八はともふあともなつてのちけのせのあつたふら
ひやうとありてうらひれふあふらうをたりまことたてらるるをいふと
まち天のちひいささるあをるへい

○これより例の津るを執をよむとて文章あり

○これにこそあき尾津波と名ふところたつらうひの太どんあり然と
日どふ大のそんかひらる日金の金あそひ尺八とてあたまさむ
竹の縁のろゆるふくさんえあつらゆえあふまごころを
あつらふとてあめむ向あつれゆえあつらふ縁のろのたて男
あふか入竹さげあつらふとてあひまらちひてんあひ
てえあつらふ津波まつてあつらふとてあつらふあ
尾よひうけあつらふとてあつらふとてあつらふあ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふあ
さうりのたてらふひあつらふとてあつらふとてあつらふあ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふあ

文
美
五
八
五

丙
下
丙

